

【別紙様式】

## 平成 26 年度 津山市立鶴山中学校

### 改善プラン「平成 26 年度全国及び岡山県学力・学習状況調査」今後の取組について進捗状況（12月）

学校の取組・改善方法 (課題に対する改善方法)	進捗状況 (学期末時点)	3 学期及び来年度へ向けて (具体的な達成目標や数値目標等)
数学・英語における習熟度少人数指導を充実させ、コースに合わせた適応問題を單元ごとに位置づける。	A	授業の中で自分の意見発表を行う場面を増やし、他に伝えあう言語活動を充実させる。
全学年 5 教科において「自主学习ノート」の取り組みを実施している。学年や教科により温度差がある。ただ、自主性に任せると提出率は低い、内容・量など目安を示すと課題と捉え、提出率は高くなった。	B	各教科で、自主学习ノートの提出率を高める。(提出率 50%以上)
夏休みに津山高校の先生の英語と理科の「出前講座」「質問教室」を行った。出前講座は2,3年生で30名程度の参加者があった。部活動単位で行った「補充教室」も充実していた。	B	家庭学習が定着しにくい児童には、放課後等で個別指導。(3学期)
10月から、月2回3年生を対象に「土曜講座」を行った。保護者・地域の方、大学生のボランティアによる質問講座と、入試対策講座を行うことにより参加者が、30人から45人に増えた。受験の意識を高めることができた。	A	3学期も予定されている4回の「土曜講座」を引き続き充実させる。学力はもちろん、学習習慣の定着、精神的に安定して受験に臨める集団づくりをする。
授業の中で、「本時の目標」の提示と、「本時のまとめ」を意識する。	A	生徒の授業アンケートでこの項目の「当てはまる。」「どちらかという当てはまる。」の合計が、各教科70%以上になる。
2年生の数学では、全国学力状況調査の問題を課題として与え、テスト範囲に入れた。質問教室を充実させることで、参加者も増え良い学び直しになった。	A	確かめ定着テストの結果を受けて、正答率の低い分野は、類似問題の授業での活用や定期テストへの出題などを行うなどさらに力を伸ばしていきたい。(来年の全国学力状況調査で県平均をABともを上回る。)

進捗状況・・・「S：目標を大きく上回った(100%を超えている)」「A：目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B：目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C：目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D：目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E：目標を達成できなかった(30%未満)」